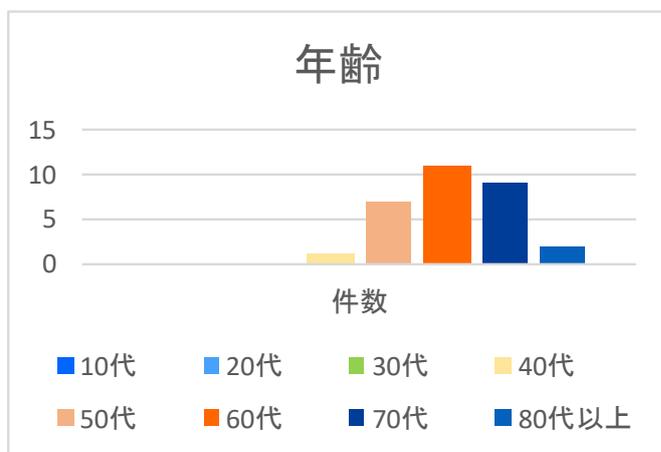
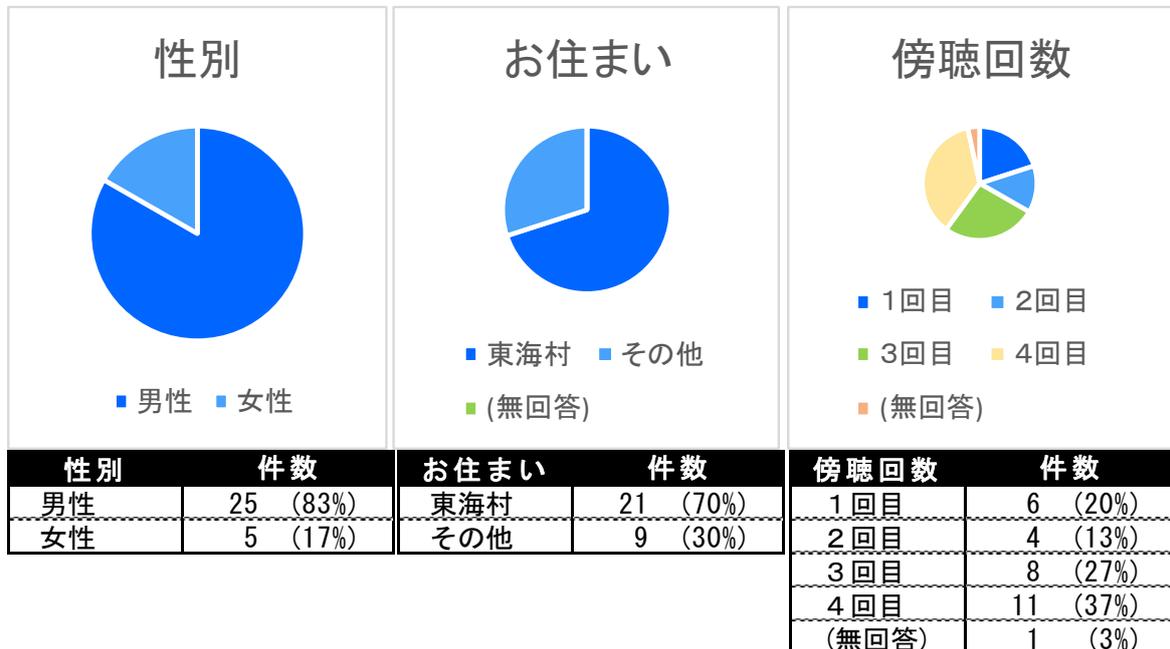
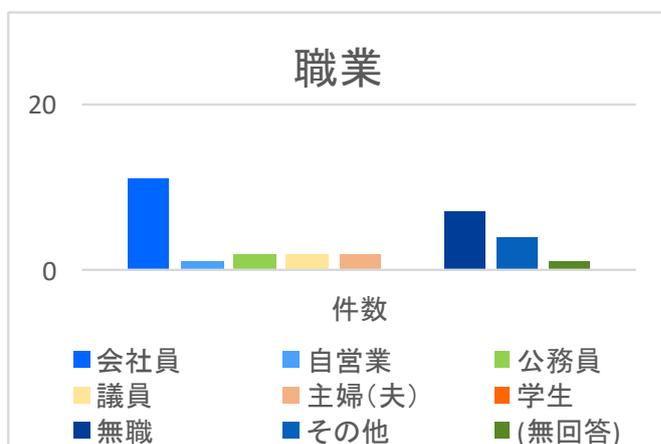


第 4 回 東海村「自分ごと化」会議アンケートまとめ（傍聴者）

回答数：30 件

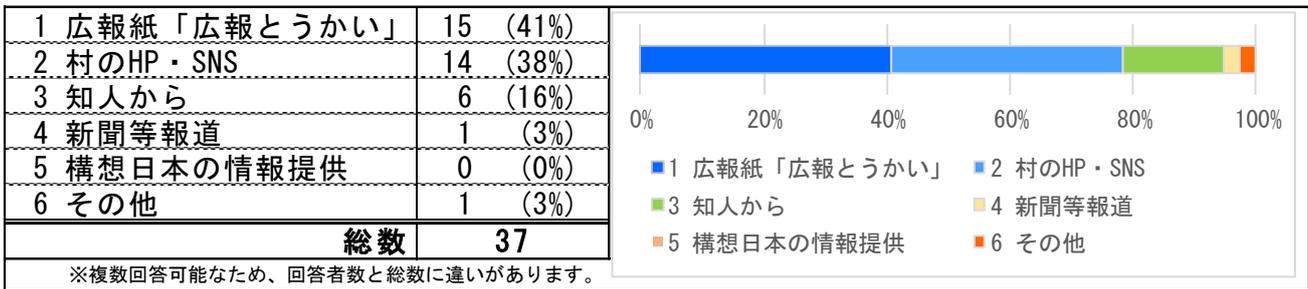


年齢	件数
10代	0 (0%)
20代	0 (0%)
30代	0 (0%)
40代	1 (3%)
50代	7 (23%)
60代	11 (37%)
70代	9 (30%)
80代以上	2 (7%)

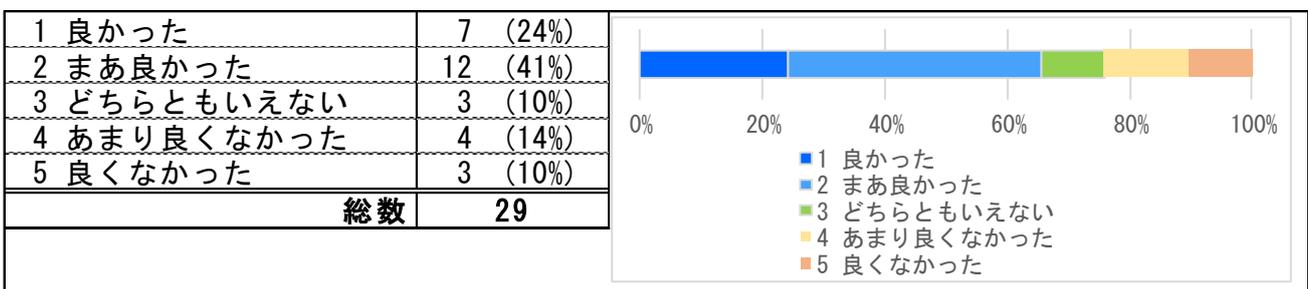


職業	件数
会社員	11 (38%)
自営業	1 (3%)
公務員	2 (7%)
議員	2 (7%)
主婦(夫)	2 (7%)
学生	0 (0%)
無職	7 (24%)
その他	4 (14%)
(無回答)	1 (3%)

1 東海村「自分ごと化会議」を何で知りましたか。



2 第4回東海村”自分ごと化”会議について、どう思われましたか。



「第4回東海村”自分ごと化”会議について、どう思われましたか」の回答理由

- 参加者の声が聞けること。
- 参加者の意見をさまざま聞いているのは、良好。
- 福島第一を見学させた上での今回のテーマに悪意を感じる。最後(第5回)のテーマを見てこの会議の目的、意義を判断したいと思う。
- 課題の議論は良かった。セキュリティ面での議論が少ないと思った。
- 福島第一原発を視察した上でのメンバーのみなさんの感想・意見伺えたので興味深かったです。一方で情報が、東電側からの情報+バスから見た風景では、不足だったのではないのでしょうか。避難当時の住民の話、今どうしているかも必要だったのではないかと。
- 自分ごと化会議の参加の発言ですが、一つのことに対する討論でなく、司会者が指名してそれに答えるというかたちで、発展性がないような気がしました。参加者間の討論で内容が深まっていくのだと思います。会議なので課題についてお互いの意思を出し合って意味があるのだろうと傍聴しながら考えていました。
- 第一回から傍聴していますが、参加者の皆さんのお考えが深まったと感じました。
- 村民の方々が、とても揺れていることが分かった。福島事故は隠しようもない大きな事故だったので、事故のリスクは”0”ではないので、共存すると決めている人もすごい不安に思っていることが伝わってきた。トリチウムは安全キャンペーンしているようですが、希釈する意味はない有機物と結合し「安全」とはいえないです。

- 住民の意見が十分に吸い上げられている。とてもよい会議となった。
- 第1回から第4回まで、歯がゆい感じや欲求不満な感じがあるのは、各回の会議のテーマは提示されるが「達成目標」が明示されず、参加者が指名されたら、ちょっと話して会話が終わってしまうこと。会議の「達成目標」は、結論や答えを出すわけではなく、「テーマについて、徹底的に多くの意見を出して集めること」として、「参加者自身が、みんなの意見を聞いた上で、自分達で次のテーマを決めて、また意見を交換し合うこと」だと思う。この会議の達成目標が毎回毎回の会議で未達だったと思う。
- 村民参加で議論が深まった。原発問題（安全課・構想日本が司会をせずに会議参加者がすべきではないか）
- 議論が発散し、かみ合っていない印象を受けた。
- 4回までやってきて、残りあと1回だそうです、一般の方の意見を一度だけでもやっていたら更にヒートアップするのではと思った。
- 話し合う場があることは良いと思う。
- 20人近くの参加者をかかえた議論はやはり、多様性と方向性を示すのに有効だと感じた。
- 参加同士の議論がない（一度だけあったのはよかった）。自由に相互に議論できればよいが、なかなか難しいとすれば、司会が相互の話しあいをするようにすべきだと思います。司会の所に意見が集中し、司会がしゃべり過ぎると思います。
- 参加者の大半は現在休止中という安堵感からか危機感に欠ける発言多い。一方40年の古い物を10年休止したのち再稼動することに対しての不安を訴える方もいてよかった。（中古車を点検修理して乗り続けるより新車の方が安全？）再稼動するより最新技術の新しい物を作る方がいいかもと思う。
- 参加者が原発に対しての考えを持たずに出席している。40年の原発がこんなに近くにある事への危機感が全くない、話しを聞いて何の為に傍聴に来たのか、残念です。
- やはり、一番大切なのは再稼動が安全なのか危険なのかということだと思う。安全／危険の両方から知見を持った方に来ていただき、討論してもらえば良かった。なぜやらなかったのか？
- こんなものでしょう。メンバーもつかれてきている様子。
- そろそろ議論が尽きてきつつある印象を受けた。
- 福島第一原発の見学、参加者が少なかったのは残念だったが、百聞は一見に如かず。メモはもちろん、会議の内容にも各委員の見学の結果が反映され、本当に良かったと思える。
- 特定の男性ばかりがしゃべっている。伊藤さんが一方向ばかり向いている。前提となる基礎知識がないまま「よくわからないけど」と言いながら話し合っ、しかもま

ちがった知識をもとに言うので、不毛です。

「あまり考えていない」ことと「中立」とはちがう、全くちがう。

- 会議の状況を把握できた。
- やむを得ないと思うが、参加者の知識や情報のバラツキを各人が自覚していないと感じるし、もう少し勉強して会議に臨むべきでは…

3 その他、東海村「自分ごと化会議」についてのご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

- 全員の声が聞きにくいです。
- 司会者の伊藤伸さんが河野太郎の近い人（原発にいろいろな意見を出している人）というのが気になる。これはボツされそう。
- 初回から同じメンバーで開催しているがテーマを変えても人が変わっていないので、正しい議論ができているか疑問である。仮にメンバーの大半が慎重派であったらこの会議自体正しい方向に進める事はできないと思う。
村の予算を使って行う会議なので、最後の成果をみて評価したい。
素人が技術的な内容まで議論しており司会者は深掘りすべきではない。
- テロ対策への対応を出来るだけ議論して欲しい。
- 努力はされていると思いますが、5回では到底まとめられないと思います。
このまま、賛成・反対で結論がでるのでしょうか？考えているけれど課題が分からないという意見が複数でたことに象徴されていると思います。当事者(元職員・作業員等の関係者)がメンバーに入っていることもフェアではないと感じました。背景も含めて確認した上で、様々な年齢層・職業・性別から、障害のある方等々、幅広い意見が必要ではないでしょうか？何らかの形で情報提供・対話を続けることが必要と思います。
- 抽選で選ばれた1000人のうち参加してもよいと決めた人は20人に満たないし、参加したメンバーのうち原子力関係者が多いのは公平でないし、女性の参加者も旦那様が関係者だったということでもますます公平ではないと思いました。どんな課題があるのか村民みんなで考える機会があったらいいのではないかと考えています。
- 福島第一原発見学所感で「ALPS 処理水が危険でないと判って何故さわぐのかな？と思った」とのご意見があり、「説明者の言葉をそのまま信じちゃうんだ」と驚きました。自分の受け止めとの違いは何なのか？と振り返った時、説明する事業者への「信頼」が違うのだろうなと思いました。自分は東電の今までしてきた情報隠しなどから、東電の説明を鵜呑みできないのですが、このご意見の方は、そうではないのだろうと思いました。その面からします

と、敦賀二号機の審査データ書き替えを起した日本原電さんには、その原因を明らかにし再発防止を図り、国民の信頼を取り戻すことが東海第二については第一歩と考えます。

- 無作為だから中立的な意見というのに同意出来ない。原発関連に働いている人が多いのだから、どうしても原発推進の意見になっていくのは当然ではないのか。
- 広域避難計画の未策定は、今後「課題」としてクローズアップされることが今日の会議で表面化しつつある。
- 傍聴者アンケートの中で参加者の発言に対し、批判的なものがあるが、これは参加者の自由な発言を障害することになるのではないかと危惧する。
- 次回の第5回では、会議参加者の発言や議論はあまり無い進行とのことだが、心配な点がある。参加者は今回の自分ごと化会議に参加してある程度の「達成感」「満足感」「進んだ感」「当事者感」などが得られたのでしょうか？それと主催者の東海村としては当初の達成目標が達成できたのでしょうか？

次に、この自分ごと化会議のようなことを、東海村の住民や周辺市町の住民に「自分ごと」として考えてもらうようにするためのアクションを起こさなければなりません、「だれが？」「何をするのか？」を早く決めて 実行して欲しいです。

- 「正しい情報」を共有していくことが必要なのではないのでしょうか。「安全だ・事故は起きない」と教育されてきた事実を明らかにしたうえで、現状をしっかりと検証すべき。
- 今回のテーマ設定など、どこで、だれがつくっているのか。メンバーはリードされているとしか考えられない。自由な議論はこれでは無理です。
- この会議の内容をどう村民に伝えていくかが重要だと考える。
- 裁判で敗訴したら、急に避難経路のことをあわてて提出しなければと、少しおどろくことがある。本当に一度爆発したら大変なことになるのになあと感じました。
- 題名が「原発問題」とあるが、「原発問題」って何か分からない。あたかも最初から「問題」があるかのように受け取れるのが「問題」。
- 「自分ごと化会議」のデメリットは何か？（時間がかかる、目標に向けての議論にならない？小生の思うこと）
- 参加者の人選がわからないが、専門家や賛成・反対の人などいた方が、傍聴者としてはためになるし自分で考える知識になると思う。福島とちがい、人口密集地域にあるという、庭先、目の前にあるというのにこれではただ4回会議をやったという実績しか残らない。3時間がむなしい。
- 福島を見に行ったとのことだが、避難によって苦労した住民の話を書くということを併せてやるべきだったのでは。

- 1. 原発立地している課題：①福島事故の動機的原因を徹底的に追求して再発防止を図ることが課題。②原子力の安全利用を科学していないことが課題。
- 2. 回を重ねるごとに原発反対の意見が消えていくように感じた。しかしそれは、賛成でも擁護でもない。
- 3. 発想力想像力に片寄りを感じず。討論者が若すぎるのか？人生の経験者の意見も欲しい。
- 4. 次回のまとめが楽しみです。松江はどうまとめたのか気になっています。
- 広域避難計画の具体的立案、いつまでなら住民に説明できるのか。疑った見方をすれば立案が難しい内容であるため先送りしているとしか思えない。
- あと1回で何かをまとめるのはむずかしい。まとまったものにどれほどの意味があるか。傍聴するたび、がっかりする。内容がうすい。
- 傍聴者からも意見を聞ければ良い。
- 村が、立地自治体として、再稼働に対する賛否を出す会議ではないにしろ、公開の場で大いに議論し、村長も質問に対して答えるなど、すばらしい試みであると思う。